

## 札幌市立米里中学校の取組【雪に関する教育課程】

### 1. 研究のねらい

本校では生徒会執行部が地域の幼稚園などと連携してボランティアを全校から募り、地域の小さな子どもたちと一緒に外で遊ぶ活動が伝統的に行われてきた。更に、「生徒会地域雪かきボランティア活動」が昨年度から実施され、消防署や地域の消防団と連携して生徒が消火栓周辺の公道を除雪する取組を行ってきた。また近年は、「菊水米里地区おやじの会雪割り作業」及び地域企業の社会貢献事業である「校地内排雪作業」を行っていただいております、地域からの働き掛けを起点に、雪を通じた連携活動が行われてきた。

これら既存の【雪】に関する活動を基盤に、昨年度からの構想であった「積雪資源ビオトップ」を含め、全校生徒が何らかの形で雪に親しみながら活動に参加できる取組を模索し、本校の特色ある教育活動として位置付け、発展させることをねらう。

雪に関わる共同作業により、部活動や学級、学年の所属を越えた生徒同士の交流が期待できる。また、生徒と先生との共同作業や地域の方々と交流をしながら行う直接的な体験活動により、学校内の各集団や地域社会への帰属感情や自己有用感がもたらされる機会としたい。

### 2. 取組内容

#### (1) これまでの取組の継承

##### ① 生徒会雪遊びボランティア活動

本校生徒会執行部が「雪遊びボランティア」を全校から募り、札幌市立きくすいもとまち幼稚園、および菊の里まちづくりネットワーク協議会と連携して、地域の小さな子どもたちと一緒に外で遊ぶ活動が伝統的に行われてきた。今年度は冬季休業中に札幌市立きくすいもとまち幼稚園の園庭や園舎にて遊びの場を提供する「ポロップひろば」と白石区の子育てサロン「わくわくぽけっと」が共催して行う雪遊びに活動が広がり、地域の幼児やその保護者の方とともに、想定を上回り 30 名近い生徒が雪遊びを行った。生徒は、汗ふきタオル、水筒、スキーウェア、帽子、手袋で身支度を調べて参加し、子どもたちと一緒に遊び、危険のないように言葉をかけ、遊びの準備や片付けを行った。



##### ② 生徒会地域消火栓雪かきボランティア活動

生徒会執行部が主体となり、全校にボランティアを呼び掛け、消防署や地域の消防団と連携して生徒が消火栓周辺の公道を除雪する取組を行う。昨年度からの試みであるが、30 名前後の生徒の参加があった。活動を終えた後は、学校に戻って集まり、温かいスープを飲みながら活動を振り返った。今年度は 3 学期に実施した。



## (2) 「積雪資源ビオトープ」を視野にいたれた新たな取組への発展

### ① 菊水米里地区おやじの会雪割り作業との連携

菊水米里地区おやじの会には、毎年4月の入学式に向け、1年生の教室清掃や校舎正面の雪割作業を伝統的に行っていた。これまでは保護者のみの活動であったが、これに部活動を中心とした主体的な生徒の参加を呼び掛け、校舎正面の雪割作業により堆積した雪や氷を「積雪資源ビオトープ」周辺に堆積する活動に発展させる試みである。

### ② 体育文化振興会グラウンド排雪活動

グラウンドに積もった雪や地域企業の社会貢献事業である「校地内排雪」により、重機でグラウンドに排雪された雪を、スコップで大型そりに乗せ、「積雪資源ビオトープ」付近に運ぶ作業である。

体育文化振興会が中心となり、運動系の外部活動のみならず、文化系の部活動への所属生徒や部活動に入っていない生徒にも冬期間の積雪状況に応じて呼び掛け、グラウンドの排雪を数回に渡って進める。冬期間の子どもたちの運動の機会となり、結果的にグラウンド使用ができる時期を早めることとなる。さらに、グラウンドから排雪された雪の融雪水がビオトープの渇水を防ぐことになり、水生生物生息の定着持続性が期待できる。

## 3. 成果と課題

---

### (1) 成果

#### ① 生徒会雪遊びボランティア活動

子どもが雪に親しむに機会としては「雪遊び」に優るものはない。ただ、中学生ともなると中学生同士だけで外の雪遊びをする機会は少ないであろう。「雪遊びボランティア」のように地域に特有な活動の存在があればこそ提供された雪遊びである。生徒は改めて雪で遊び、自己の経験により自然に幼児に雪での遊び方を教えるなど、雪への親しみを一層もったに違いない。さらに、生徒たちのはつらつと遊ぶ表情や、地域の子どものみならず、その保護者や先生方との交流も自然な形でなされる様子が見られた。中学生にとっても地域の方々にとっても、双方が「地域」を直接的に実感できる貴重な体験活動であると言える。

#### ② 生徒会地域消火栓雪かきボランティア活動

日頃公的機関によって行われている消火栓周辺の除雪は、自分たちの手で行ってみて、初めてその仕事の重要性とともに困難さにも気付くであろう。消火栓という日常的には意識しない存在とその役割について、改めて認識する機会でもあり、生徒の危機管理や防災への意識、また社会性や公共的価値観の確立にも寄与したと思われる。

今年度は新たに白石区土木課雪対策室の御協力により、公道除雪用のスコップ等の雪かき物品を無償貸与していただいていることにより、全ての参加生徒が道具を使うことができ、この活動は大きく前進した。

### ③今年度からの新たな取組

グラウンド排雪活動はこの報告書を提出した 2 月現在も進行中の活動である。試みとして冬季休業明けすぐに実施したグラウンド排雪活動は、本校の体育文化振興会が 3 学期始業式の日翌日の実施を全校生徒に呼び掛けた。

始業式翌日の土曜日の実施にもかかわらず、野球部、サッカー部、バスケットボール部等の運動系の部活動だけではなく、科学部をはじめ日常的に運動の機会が少ないと思われる生徒の主体的参加も見られた。50 名近い生徒が参加し、イベント的に実施された今回の活動に対する生徒のニーズは低くはないことが分かる。生き生きと活動する参加生徒たちの様子から、学年や部活動の枠組を越えた連帯感を深めたと思われる。

多くの仲間との作業で共に汗をかき、大量の雪を排雪して一カ所に堆積させた雪山の光景は、作業後の生徒が集団としての達成感を更に高めるものであった。雪山はシーズン中の活動の度に更に大きくなっていくであろう。この光景と実体験が生徒間に伝播し、主体的に参加する生徒はこれから多くなるとと思われる。本校生徒の冬季の伝統的な運動の機会提供の足掛かりとなった。

仲間や先生との共同作業の直接体験的な活動を行うことにより、参加生徒同士のつながりを実感したり、個々の自己有用感や自己肯定感を育む機会づくりができた。募集段階で、校地の利用性を高めたり、生物の生息環境を生徒自身の活動で創り出したりするプロセスの一つであることを盛り込んだことで、冬に行ったこの活動を、春以降も「積雪資源ビオトープ」を校舎の窓から見ながら想起できると思われる。全校生徒が米里中学校としての特色ある活動であることを再実感しながら、本校の文化として愛着をもつことを期待したい。



### (2) 課題

校地に隣接して設置されている側溝には希少魚種であるイバラトミヨが生息している。この存在を認知した 4 年前から、周辺のごみ拾い活動などを中心とした保護活動を、本校の科学部が中心となって行ってきた経緯がある。本来湧水性の泉などにしか生息できないはずのこの魚にとって、この側溝は恒常的に大量のごみが投げ捨てられており、生息環境としては劣悪である。そのため新たな生息場所を校地内に作り、積極的な保護活動を行うことを目的に、昨年度から「積雪資源ビオトープ」を造成した。この活動には多くの生徒が参加し



始め、本校の特色となりつつある。

今年度の雪の堆積がビオトープの水質維持や渇水の防止にどれほど効果的であるのかについては模索の段階である。継続的な観察や調査により成果を確認して生徒同士が共有し、雪に関する活動にさらなる価値付けをすること、また他領域との関連性や相互作用を学校として位置付けることで、活動の意味に深みと幅をもたせたい。



今年度の取組により、本校の生徒会活動や総合的な学習の時間に関連し、全校的に「地域」の方々や「雪」に親しみながら、雪がもたらす水生生物の生息「環境」の存在とそれを維持するための資源としての雪の魅力に気付くことができる。「雪」「環境」両面からのアプローチが実現する教育活動であると考えている。



また、各領域における波及効果と相互作用については以下のように考えられる。

地域連携 : 白石区土木課との連携・菊水米里地区「おやじの会」との連携

部活動活性 : 部種や部への所属を越えた生徒同士の共同作業交流・異学年交流

奉仕活動 : 生徒会「地域雪かきボランティア活動」への波及効果

休校地利用 : 校地内雪堆積場所の明確化・ビオトープ造成

環境学習 : ビオトープ造成・地域特有の希少生物の保護活動

生徒指導 : 自分なりの活動による集団の一員としての自覚  
社会的有用感と居場所づくり

理科教材 : 微生物・軟体動物・節足動物の観察、食物連鎖、分解者、自然環境の調査、外来種の存在、希少生物の保護活動、自然からの水資源の恵み等についての学習への活用

その他 : 総合的な学習の時間の題材提供

特別活動（学級活動・生徒会活動・学校行事）の有機的な連携の構築

以上を踏まえ、来年度以降も全校的な活動としての発展性や、運動部以外の生徒にも冬期間の運動の機会を提供することに寄与し、心身両面的な向上が期待できる活動が課題である。さらに今後は生徒が主体的かつ伝統的に校地内の環境に目を向け、環境美化や環境保全の意識を高く維持できるよう着実に継承していく下地づくりが大切である。従って、「総合的な学習の時間」や「特別活動」また「理科・環境」への教材としての活用など、雪や札幌の冬を活かした学習活動の教育課程への位置付けを視野に、全校生徒が何らかの形で雪に関する学習活動に参加できる取組の模索を継続したい。

一方で、今年度の各活動に参加した子どもたちのほつらつとした笑顔は、雪に親しむための大前提であることを総括として確認したい。雪の活動に対しては参加した後の達成感や充実感に基づく「楽しかった」や、連帯感や所属感などを伴う「おもしろかった」などの言葉を何よりも重視し、生徒のニーズの実現可能性を高めていくことが必要である。